

幌尻山荘のトイレについて

石森 充（平取町山岳会 会長）

トイレの現状

幌尻山荘のトイレの数は山荘内に1箇所、屋外に移動用の簡易トイレ2箇所の計3箇所である。収容人員約50人の山荘としては十分ではないまでもまずまずだと思うが、朝の利用時間が輻輳すると待ち人もできる。便槽は汲み取り式で水分は地下浸透で固形物を汲み取って穴に埋没して自然に分解させている。百名山ブーム以来、入山者が急激に増加して、以前は4年に1回の汲み取りが5年程前から毎年汲み取りをしている。自然分解では間に合わない状態である。

昨年10月山荘冬囲いの時に4年程前の埋没した固形物の分解状態を調査したが、その成果は満足できる状態ではなかった。一昨年は分解を促進させるためバクテリア菌を混入したがそれも十分とは云えなかった。標高約960Mの高所で地温も低く分解速度が遅いと思われる。穴を浅くすると雨水等で流出する可能性も考えられる。これ等について研究の余地がある。屋外の簡易トイレも冬の積雪のため破損が激しく修理をしながら利用している。

携帯トイレについて

山荘には携帯トイレ(便座テントを含む)も用意していますが、常設利用はしていません。事後処理、利用者のマナー等の問題もあり今後の課題として取り組みたいと考えています。

今後のトイレについて

理想としてはバイオトイレが絶対に必要と思いますが、町村で整備することは財政的に非常に厳しく難しい状況であります。それで山岳会としては屋外に別棟のトイレを建築(汲み取り式)し、分解については研究の余地があり取り組みを強化したいと考えています。

環境汚染については当然起こり得る事は否定できない。人の入り込みが増加すれば比例して増加するだろう。山荘管理者だけでは解決できる問題ではなく、登山者全体に係る問題と考えています。

終わりに

昨年9月、黒岳石室にバイオトイレが上川支庁によって設置されたニュースを見てうらやましいと思った。日高山脈唯一の百名山の山にもトイレの設備を北海道に要望していきたいと考えており、貧しい町財政の中から山荘の修復(築40年)に多額の費用を出して貰っていることを考えたとき、山荘なんか無ければよいと思うことも事実である。一昨年山荘に管理人を7月、8月と常駐させた。山小屋を守るために利用申し込みをすることになっているのに申し込みはしないし利用料は払わない。野営指定地でもないのにテントを張り、ゴミ、トイレ紙を散乱させる等まだまだ問題が多い。でも本当に山を愛する仲間も多い。トイレを考える会、ファンクラブ等々その他の仲間と一緒に私共の会も全員で幌尻山荘を守っていきたく願っている。更なる御協力をお願いしたい。